

第38回全日本クラブ野球選手権大会特別インタビュー
ビッグ開発ベースボールクラブ&千曲川硬式野球クラブ

「地元愛にこだわり続けて掴んだ晴れ舞台」

今大会には弘前アレッズ（東北地区／青森県）、千曲川硬式野球クラブ（北信越地区／長野県）、MSN医療専門学校（中国・四国地区／広島県）、ビッグ開発ベースボールクラブ（九州地区／沖縄県）の4チームが初出場を果たした。チームの成り立ちはそれぞれ違うものの、クラブチーム日本一を決めるこの大舞台で、日頃鍛えた自分たちのプレーを思う存分発揮し、勝利を掴み取りたいという気持ちは皆同じ。そんなフレッシュな顔触れの中からビッグ開発ベースボールクラブと千曲川硬式野球クラブにチームの結成から本大会への意気込みまで、様々な話を聞かせてもらった。

間違っていなかったことを確信！

厳しい予選を勝ち抜いて沖縄県勢初の本大会出場を決めたビッグ開発ベースボールクラブが誕生したのは平成20年3月。沖縄県といえば高校野球の強豪校が多く、また春先には多くのプロ野球チームがキャンプを行う地とあって野球は身近なスポーツの一つ。だが、学校卒業後に野球を続けるための受け皿はまだ少ない。そこで下地 剛監督は少しでも役に立ちたいという強い思いからこのチームを結成したという。

——チームを作るといっても簡単なことではないと思いますが、メンバーは全員『ビッグ開発』の関連会社に勤務しているなど、野球だけに限らず社会人としての育成にも取り組んでいるそうですね。

下地 チームを作ったのはただ野球が好きだからなんです。高校を卒業したばかりの若い選手が多く、まずは社会人としての教育を第一に考え、「仕事と野球の両立」をチームのテーマにして活動しています。

——仕事をしっかりとこなすことはもちろん、毎日、練習前には会社の清掃などしているそうですね。

下地 はい。野球が出来ることへの感謝の気持ちを表す意味を込めてのことです。基本的に練習は午前中に行い、午後から勤務しているわけですが、ウチはグラウンドを持っていないので、あちこちの施設を借りて行っています。そこで選手たちは朝、会社集合してまずは会社の周りを清掃して、その後練習場所へ移動しています。掃除は練習場所や試合後



▲普段グラウンドでは厳しい下地 剛監督(右)の貴重な笑顔写真。



▲練習前に会社を集まり周囲を清掃。これが一日の始まり。



▲捕手で四番打者。チームの大黒柱・仲村竜之介主将。

も熱心に応援してくれるのではないですか？

下地 そうですね。本当にありがたいことです。今回のクラブ野球選手権大会出場も喜んでもらいました。

——苦勞していることはありますか？

下地 やはり練習場所の確保でしょうか……。沖縄県といえば年中野球が出来る場所とお考えの方が多いと思うのですが、毎年2月になるとプロや大学の野球部がキャンプに訪れ我々が使用出来る施設はかなり少なくなります。そんな状態が4月まで続き、次は6月の高校野球選手権予選の準備で芝の手入れやグラウンドの整備が行われるんです。ですから練習場所を探すのは大変なことなんですよ（笑）。

——それは意外でした。そんな環境の中で強いチームを作り上げたことはお見事です。

下地 昨年は予選の決勝で鹿児島ドリームウェーブさんに1対2で負け、あと一歩のところまで悔しい思いをしました。何かが足りなかったんですね。ですから選手たちにはこの一年間、その悔しさを忘れず打ち込もうと伝えてきたんです。きっかけは今年5月のJABA九州大会でした。結果は企業チームを相手に3連敗したわけなんです。そこで痛感したのが技術よりもパワー不足と精神力の弱さだったんです。それからは午前の練習以外に仕事を終えてから、投手は毎日5kmのランニング、野手は素振りを500回。これをノルマに鍛え

のベンチもしていますよ。

——それは素晴らしいことですね。そんな彼等に対し、会社の方々



▲結成5年目4回目の挑戦でついに夢を叶えたビッグ開発BC!!

ました。若い選手ですからスタミナやパワーに自信が持てるようになると日増しに精神的にも強くなったようでした。

——チームの変化が初出場の原動力になったわけですね。

下地 勝てたことは嬉しいですが、今は練習方法が間違っていなかったことが確認出来て、ホッとしています(笑)。

——ご自身ではどんな監督だと思えますか？

下地 選手に対してはかなり厳しいと思います(笑)。常に心掛けているのは、選手の心理を読んで誤った調子付けはしないということです。具体的に言えば、今打ったヒットが実力なのかそれともたまたまなのかということを理解してもらえように伝えています。その時は良くても次に繋げてもらわなければその選手の成長になりませんからね。

——そんな下地監督さんを主将の仲村竜之介捕手はこう話していました。「監督からは仕事も野球も1からすべて教わっています。まだまだ足りないところはありますが人間的にも成長出来たと思います。確かに厳しい面はあると思いますがONとOFFの切り替えがはっきりしていて、球場を離れるととても優しい人です。いつも選手一人ひとりのことを気に掛けてくれるし、このチームに入って本当に良かった」と。

下地 いやあ嬉しいですね。彼は本当によくチームを引っ張ってくれている選手で私も感謝しています。チームのためには嫌われ役もいとわない責任感の強い理想的な主将です。

——お互いの信頼関係を感じますね。それではどんな野球をするチームか教えてください。

下地 「全力疾走」というスローガンのもと、元気いっぱいにして常に挑戦者の気持ちを持って全力プレーで戦うチームです。

——それでは最後に今大会への意気込みを聞かせてください。

下地 九州地区代表になり大勢の方々から祝福していただき大変感謝しています。そんな方々に少しでも恩返しできるように地に足をつけて自分達の野球をしたいと思っています。